

腎臓内科

(スタッフ)

部長 : 縄田 智子
嘱託医 : 山口 奈保美 (2020. 4月から)
 : 丸尾 美咲 (2020. 3月から産休・育休)
後期研修医 : 鈴木 智子 (2020. 4月から)
 : 和田 萌美 (2020. 3月まで)

腎臓内科は2016年7月に膠原病・リウマチ内科と分離される形で設置され、2018年4月よりスタッフ3人の体制となりました。実際の診療、回診・カンファレンス、研修医指導は引き続き膠原病・リウマチ内科と合同で行っています。2020年研修医は、1年次として木下湧暉医師(2-3月)、藤川一郎医師(2-3月)、馬場晶子医師(4-6月)、矢野文子医師(4-6月)、中尾優衣医師(7-8月)、蔭山徹医師(9-10月)、松木康介医師(11-12月)、柴田稔文医師(12月-)、2年次として浦田脩医師(1月)、杉本未来医師(8-9月)、卯野明大医師(11月)が研修を行いました。

(診療実績)

腎臓内科では内科的腎疾患の入院および外来診療と並行して透析室業務を担当しています。透析室での診療については別稿(P.76)に記載します。

外来は、2016年7月開設時より2階泌尿器科外来と1階消化器内科外来を借用する形で行ってまいりましたが、大規模改修工事により正式に腎臓内科外来として設置され、2020年8月より外来棟1階にて診療を行っております。慢性腎臓病(CKD)、IgA腎症、ネフローゼ症候群などが対象疾患ですが、内分泌・代謝内科、膠原病・リウマチ内科と診察室が同一区画となり腎疾患として連携がより取りやすくなったと実感しております。CKDに関しては、かかりつけ医の先生方との連携診療を基本とし、腎疾患の総合的評価、薬剤調整、管理栄養士による栄養指導を行っています。また、外来診察室が固定となったことにより、看護師による生活指導や医療ソーシャルワーカーによる生活支援など、多職種での治療介入をより充実できるようになりました。

入院は、7階東病棟において腎生検、ネフローゼ症候群に対するステロイド療法、血液透析導入、急性腎障害の治療、CKD評価教育入院、などを行っております。

2020年は新型コロナウイルス感染の蔓延が腎臓内科での診療にも影響を及ぼしたと考えます。腎生検やCKD評価教育目的での入院が減少しており、検診

受診件数の減少や、あるいは感染予防行動により腎炎の新規発症が減少しているのかもしれない、と考えました。今後の動向を注視し、適切な対応を心がけて行きたいと考えております。

表 入院患者内訳

(単位: 件)

入院疾患分類	2017年	2018年	2019年	2020年
慢性腎臓病/慢性腎不全	71	80	79	80
急性腎障害	3	7	3	8
ネフローゼ症候群	25	22	32	24
IgA腎症/その他の糸球体疾患	16	16	17	11
急速進行性糸球体腎炎	5	1	12	11
腎尿細管間質性腎疾患	3	3	12	11
その他	15	20	28	30
入院件数合計	138	149	183	175
エコーガイド下腎生検件数	23	19	24	14
透析導入件数	53	53	46	43

(今後の方向性)

大分県は人口あたりの透析患者数が全国的にみて常に上位にあり、腎疾患の早期治療、進行予防が腎臓内科として必須の課題です。そのためには、かかりつけ医の先生方との円滑な連携と、院内での各診療科・多職種との密な連携が不可欠と考えます。今後も大分県における新規透析導入数の減少と腎疾患患者のQOL向上を目指して、質の高い診療を目標に努力してまいります。

(文責: 縄田智子)